

12月10日

12月10日。私にとってはこの原稿の締切日・・・なのですが、世間的にはノーベル賞授賞式が行われる華やかなる日であり、そしてそれは賞の創設者であり発明家のアルフレッド・ノーベルの命日でもあります。そのノーベルの言に以下のものがあることを最近知りました。「年間300のアイデアを思いついて、そのうちのたった一つだけでも有用であれば、私は満足である (If I came up with 300 ideas in a year, and only one of them is useful, I am content.)」。ノーベルはダイナマイトの開発過程において、様々なアイデアを試し、爆発事故などの困難も経験していますが、最終的に技術を完成させています。

そして今年のノーベル化学賞をめでたく受賞された吉野彰博士は、以下の趣旨のコメントをされていました。「リチウムイオン電池の原型を完成させるまでに、電極を200~300種類くらい試した」「ただ闇雲にやるのではなく、魚(目標物)がいる(と狙った)ところで糸を垂れた。魚がいれば、あとはどう釣るかを考えればよい」。

これら二人の言からは、研究開発が成功に辿り着くまでに多くのアイデアがボツになる試行錯誤の過程が存在すること、その過程で失敗からも学びつつ、信じて狙いをつけたところで試行を続けることが成功の鍵であることなどが汲み取れると思います。

研究活動における効率や無駄削減が求められがちな昨今を振り返ると、試行錯誤や失敗には否定的な声が上がりがちかもしれません。当然、回り道や失敗はない方が良く決まっています。しかし、研究成果をあげていくためには試行錯誤や失敗は避けて通れない過程であり、むしろ必要な過程として肯定的に理解するのが良いと改めて気づかせてもらいました。ノーベル賞クラスの研究とは分野も質も違いますが、我々の研究でもうまくいかない過程はつきもの。壁や失敗があってもそれから学んで、次は成功!の姿勢で研究を進めましょう。

(寒地道路保全チーム 席研究員 丸山 記美雄)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。